

REPORT

令和2年度 おかやま文化芸術アソシエイツ調査研究事業
「文化芸術交流実験室」報告書



公益社団法人 岡山県文化連盟

おかやま
文化芸術アソシエイツ

おかやま文化芸術アソシエイツ

岡山県文化連盟が持つ既存のネットワークを生かして、岡山県の各地域で生活する我々がその地域の文化を構成する資源(ヒト、コト、場所、お金等)についてよく知り、地域の未来を見据えた新たな価値の創造と多様なステークホルダーの共生について思考するために、平成29年度から始動した地域アーツカウンシル機能です。プログラム・コーディネーターとともに、以下のような取り組みを実施しています。

東京2020オリンピック・
パラリンピック競技大会に
向けた文化プログラムの
周知、参画の促進及び
beyond2020プログラムの
認証

文化団体等の
活動に対する
助言、支援

調査事業の実施

文化活動に係る
研究会、勉強会、講演会
などの実施

本書では、③県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業の一環として実施した「文化芸術交流実験室」のレポートと、そこから得られた情報を中心に令和2年度の取り組みを中心に報告します。

実施体制

主催 おかやま文化芸術アソシエイツ(公益社団法人岡山県文化連盟)・岡山県

プログラム・コーディネーター 大月ヒロ子

事務局(公益社団法人岡山県文化連盟) 岡野千鶴、高田佳奈、剣持宏子

運営協力 一般社団法人ノマドプロダクション

協力 瀬戸内市民図書館もみわひろば、キノシタショウテン(第27回)、一般社団法人岡山農業会館、株式会社岡ビル百貨店、上之町ビル、西川アゴラ(第28回)、EXCAFE(第28回、第30回)、岡山県立美術館(第31回)



大月ヒロ子

(有)アイデア代表取締役

一般財団法人地域創造 公立美術館活性化事業企画検討委員、キッズデザイン審査員

板橋区立美術館学芸員を経て独立。1989年、ミュージアムづくり、展覧会監修、遊びと学びの空間デザインを行う(有)アイデアを設立し、数多くの公立ミュージアムの設立・運営に関わる。2013年に日本初のクリエイティブリユースの実験室IDEA R LABを倉敷市玉島オープンし、国内外でプロジェクトを展開している。「まるをさがして」他、著書多数

文化芸術交流実験室

岡山県内の優れた文化・芸術資源を掘り起こし、その価値を県民の皆様に再認識していただけるよう、調査研究事業を行いました。

調査の過程で得られる新たな情報や人材データをもとにして、文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みの提案と、ソーシャルインクルージョンの視点に基づいたレクチャーとワークショップを定期的に開催し、県内の人材や文化資源の領域横断を誘発する出会いの場の創出とネットワーク構築を目指しています。

この実験室に期待するのは、文化芸術コミュニティ内での交流はもちろん、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流に文化芸術の創造性を生かした新しい取り組みが始まり、すべての人が文化芸術を楽しむことができる岡山が生まれることです。

※第1～5回は平成29年度、第6～17回は平成30年度、第18～26回は令和元年度に実施

第27回 詩であそぼう ことばを味わおう

日時 | 2020年10月10日(土) 13:00～17:00

開催地 | 瀬戸内市民図書館 もみわ広場(瀬戸内市邑久町尾張 465-1)

講師 | 渡邊めぐみ(詩のソムリエ、編集者、対話型鑑賞ファシリテーター)

スミカオリ(ヨノナカ実習室)

北川久美子(岡山県和気閑谷高等学校 非常勤講師)

参加者数 | 28名



参加型の創作ワークショップ(第27回)

第28回 建築探偵団 其の四「内側から見る岡山」

日時 | 2020年11月1日(土) 13:00～17:00

開催地 | 岡山市内各所(岡ビル百貨店、上之町ビル、岡山県農業会館 他)

講師 | 内海慶一(都市鑑賞者、ライター)

石田尚昭(公益財団法人 岡山文化芸術創造 理事)

参加者数 | 39名



岡山市内のフィールドワーク(第28回)

第29回 訪問実験室!文化芸術が生まれてくる現場 vol.1「能舞台の絵の制作」

配信開始日 | 2021年3月25日(木)

配信元 | YouTube(OKAYAMA CULTURE V)

講師 | 森山知己(倉敷芸術科学大学教授、日本画家)

再生数 | 80回(3月末時点)

※新型コロナウイルス感染状況の拡大をうけて、映像収録によるコンテンツも制作、配信



映像収録・配信による訪問実験室(第29回)

第30回 岡山カルチャー・クロニクルシリーズ1「遊園に学ぶ視覚的な記録法」

日時 | 2021年3月14日(日) 13:00～17:00

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ(岡山市北区天神町 8-54)

講師 | 能勢伊勢雄(写真家、前衛映像作家、ライブハウス主宰)

大森誠一(NPO法人アートファーム代表理事、プロデューサー)

岡田智美(山陽新聞社編集局文化部副部長(デスク))

参加者数 | 27名



講師によるレクチャー(第30回)

第31回 訪問実験室!文化芸術が生まれてくる現場 vol.2「飾る・仕舞う、運ぶ(掛軸編、器編)」

配信開始 | 2021年5月

開催地 | YouTube(OKAYAMA CULTURE V)

講師 | 福富幸(岡山県立美術館、学芸課長)

アートマネジメントオンライン研修

文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みを実際に進めるためには、各分野に関わるマネジメントの基礎的な知識を身に付けることはもちろん、それらを生かした実践例を知ることによってその生かし方を学んだり、ワークショップや実践等による身体化が欠かせません。

例年、「文化芸術交流実験室」でもアートマネジメントに関わるテーマを取り上げる回を設けるほか、文化活動に係る研究会・勉強会・講演会等を実施してきました。

本年度は、新型コロナウイルスの感染状況の拡大をうけて、オンラインを活用した研修プログラムを実施しました。

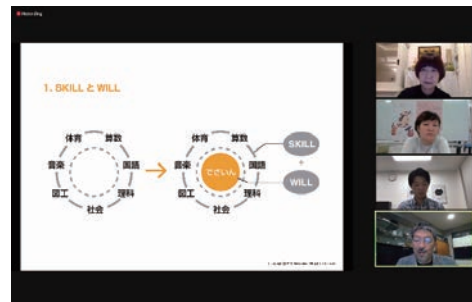
デザインとは何か？

日時 | 2020年9月17日(木) 20:00~21:30

開催地 | Zoom

講師 | 村田智明(株式会社ハーズ実験デザイン研究所 / METAPHYS代表取締役)

参加者数 | 69名



Zoomによるオンライン開催

今、アートを学ぶこと

日時 | 2021年3月5日(金) 15:30~16:30

開催地 | Zoom

講師 | 森山知己(日本画家、倉敷芸術科学大学芸術学部教授)

参加者数 | 18名



「今、アートを学ぶこと」講師の森山さん

文化芸術交流実験室27

詩であそぼう ことばを味わおう

日時:2020年10月10日(土)13:00~17:00

開催地:瀬戸内市民図書館 もみわ広場(瀬戸内市邑久町尾張465-1)

講師:渡邊めぐみ(詩のソムリエ、編集者、対話型鑑賞ファシリテーター)

スミカオリ(ヨノナカ実習室)

北川久美子(岡山県和気閑谷高等学校 非常勤講師)

私たちは、いつから詩との距離が離れてしまったのでしょうか？
しかしながら、注意深く周りを見渡せば、詩とともに生きる人たちが案外いることに気づきます。その活動は文学の分野だけで完結するのではなく、福祉や教育、そして美術、音楽、ダンスなどの分野とも分かち難く結び付き、詩が本来持っている力、人が本来持っている力を呼び覚ましています。

今回はとことん詩であそびながら、ことばを思いっきり味わってみます。終わった後は、なんだか気持ちがふわっと軽くなる、そんな実験室を目指します。

渡邊めぐみ…福岡県生まれ。慶應義塾大・東京大学大学院にて戦後詩や寺山修司を研究。2015年に㈱ベネッセコーポレーション入社。高校生の進路と表現教材の企画・編集職を経てフリーランスとなる。現在は詩のソムリエとしてワークショップや講座を手掛ける。

スミカオリ…岡山県生まれ。学生時代に探検と文学と民俗学に憧れ、学校教育に20年携わった後に独立。調理実習や木工実習のように、対話や表現、交流の実習活動を行う「ヨノナカ実習室」を運営。高校などで授業や地域連携のサポートにも携わっている。

北川久美子…岡山県出身、ノートルダム清心女子大学大学院日本語日本文学専攻終了。1974年より2012年まで教師として国語教育に携わり、子ども達の表現活動をサポート。現在は和気閑谷高等学校の非常勤講師。著書に「北川先生の作文教室(武蔵野書院)」がある。



レポート

今回の会場は、開放的な雰囲気が魅力の瀬戸内市民図書館。この日は1階の「つどいのへや」に、約21名の参加者が集まりました。

最初に3名の講師陣がプロフィールと好きな詩を紹介しました。北川先生からは、中学生の詩や俳句、作文をまとめる文集制作の活動について紹介があり、教育の現場で感じた子ども達の豊かな感性や、言葉と向き合うことで誰もが想いを表現できる素晴らしさについてお話をいただきました。

今回は気軽に詩を楽しむことをテーマに、まずは全員で一つの詩を朗読するワークショップを行いました。「びたびた、たぶ、ももも」など、ひらがなの擬音語でつくられた詩を鑑賞し、そこからどんな場面が想像できるのかを2人1組で話し合います。水の音や生き物の動き、お腹にいる胎児の様子など、思い浮かぶシチュエーションは人それぞれ。イメージを頭に描きながら声に出すことで、言葉が生きてくるのを感じます。「詩は声に出すもの」ということに改めて気付かされる体験となりました。

続いて、連想ゲームのように取り合わせの言葉をつなげる「打越マトリクス」(佐藤文香さん考案)の作句法を用いたグループワーク。「新米」という言葉から思い浮かぶ言葉を輪のように書き出し、そこから連想した言葉をさらに広げます。違うグループの紙と交換してさらに書き足し、出てきた言葉を組み合わせで一人一句を制作。一見、関連しない言葉を五・七・五のリズムに乗せるのが難しいところですが、全員が制限時間内に句を完成させました。「新米と ロマンスグレーの 帰り道」「新米の 神様宿る においかな」など、参加者の力作を鑑賞しながら感想を述べあいました。

「連想で詩をつくる」というワークショップは、生活の中の「とるにたらないこと」がテーマ。例えば「仕事帰りの夕日」「真新しい石鹸を使う」「窓に張り付くヤモリの白いお腹」など、ふと心にとまる好きなもの、小さな幸せを感じられる瞬間が誰しもあるもの。そんな「とるにたらないもの」を順番に読み上げながら、各自が音の鳴る物を鳴らして言葉のムードを深めます。詩のソムリエ・渡邊さんが「小さいけれど、かけがえのない日常」という言葉で締めくくると、胸に響く一編の詩が完成しました。

最後に、トークセッションで全体の感想や詩についての意見交換を行いました。



講師の北川先生とスミカオリさん。和やかな雰囲気で進行



連想する言葉をつなげて俳句をつくるグループワーク



参加者の発表に笑顔を見せる渡邊さん



ヨノナカ実習室

講師のシミカオリさんが運営する、対話や表現、交流の実習活動を行うためのスペース。さまざまなテーマのワークショップやイベントを開催し、面白そうなことをみんなで共有したり、困ったことをみんなで相談し合えるような場を目指している。「予定通りは 5割、副産物 7割」、「とにかく実際にやってみる」ことを大切にした実習活動は、入口のハードルを上げない、明確なゴールを定めないことがポイント。お互いを生かし、現場で生まれる化学反応も活動の魅力。

<https://yononaka-jsh.hatenablog.com/>



北川先生の表現活動

長年にわたり、中学校で国語教師として子ども達の表現活動を支えてきた北川先生。紹介された文集「想いよ届け」は、赤磐市立吉井中学校の生徒が創作した川柳や詩、作文を 1年の集大成としてまとめたもの。「自分の抱く想いを自由に表現してほしい」と北川先生が発案。生徒が自分達で制作を行い、学校の伝統として受け継いでいる。北川先生は作文の書き方を紹介した著書「北川先生の作文教室」を出版。文章を書くのが苦手な子にも分かりやすいアドバイスで、書くことの楽しさを伝えている。

ワークショップ

ワークショップ

「詩を朗読する」

ひらがなの擬音語で表現された詩を声に出して読む。「びたびた、たぶたぶ、しゅるしゅる」など、一つひとつの音からどんな場面が想像できるか 2人 1組で話し合い発表する。情感を込めて読み上げることで、詩の世界が深まるのを感じる。

「グループで連想俳句をつくる」

4～ 5名のグループに分かれて、連想する言葉で俳句を創作。「新米」という言葉から連想するワードを書き足し、一巡したら他のグループの紙と交換。どんどん広がる言葉の渦を楽しみながら、出てきた言葉をつないで自分なりの一句を詠む。

「連想でつくる詩」

生活の中で、自分が好きだと感じる「とるにたらないこと」を書き出す。例えば、ビールをぶしゅっと開ける瞬間、オレンジの金木犀を見つけた時、仕事終わりの夕日の色など。みんなで輪になり、一人ひとりの「とるにたらないもの」を順番に発表して一つの詩にする。音の出る物を楽器として鳴らしながら丁寧にゆっくりと朗読する。声の強弱や呼吸を感じながら、言葉のイメージや意味を膨らませる。

『とるにたらないこと』

とるにたらないこと	とるにたらないこと
マンションの影がのびている	赤い光の通知オフ
オレンジの金木犀を見つけた	家の中で聞く雨の音
私は昨日なかった雑草をぬく	雨上がりの生えるさ、ツンとする匂い
いれたてのコーヒーのにおい	キッチンの窓に貼りつくヤモリのお腹の白さが好き
ま新しいスニーカーに通すくつひも	冷蔵庫の野菜室にある果物を確認してつくる野菜ジュース

とるにたらないこと	とるにたらないこと
ランチで 60円の味噌汁をのむ時間	それは小さいけれどかけがえのない日常
スーパーで美味しそうなお肉のチキンをみつけた	
子どもが寝た後の Amazon prime	
毎日見上げる月の満ち欠け	

とるにたらないこと
仕事終わりの夕日の色
バック駐車が一発で決まったとき
ドアのチェーンをかけたとき
レコードに針を落とす音
撫でる猫のやわらかさ

ドリンク

・瀬戸内市に焙煎所を構え、岡山県下各地にコーヒーショップを展開する「キノシタショウテン」のコーヒー。頭を使った後のリラックスタイムにぴったり。



参加者コメント

- ・参加者の方々のいろいろなお話が聞けて、詩の楽しさを感じることができた。(20代/女性/大学生)
- ・詩を好む人はひっそり暮らしていると思うので、こういう機会があるのはありがたい。(30代/男性/会社員)
- ・普段は詩を書かないけれど、ワークショップで言葉の面白さを知った。これを機、自分の中身を時々でも言葉にして出していきたいと思った。(40代/女性/自由業)

講師コメント

詩や作文は誰でも作れるものであり、心の中を自由に表現できる一つの手段です。つたない言葉であってもいいので、子どもたちみんなが詩を詠んだり文を書けるように教育をしていきたいと考えています。今回の実験室では、みんなが詩に対してどう思ったのか、ワークショップの目指すゴールや落としどころについても知りたいところ。今日のことを、どういう形で繋げていこうかが大切だと思います。(北川)

ワークショップを通じて皆さんの豊かな発想に触れることができ、「感性を磨くってこういうことなんだな」と、改めて実感できました。今回の目的としては、まず皆さんに詩の世界を楽しんでもらうこと。自分の考え方や感じ方を肯定して、もっと詩や言葉を面白がってもらえうきっかけになればうれしいです。(渡邊)

みなさんの発想や紡ぐ言葉一つひとつがユニークで、ワークショップで作った俳句も名作ぞろい。最後の質問コーナーでは「詩の言葉に、体のどこが反応して感動しましたか？」など、私自身も聞いてみたいことがたくさんありました。私にとっても興味深く、非常に楽しい時間になりました。(スミ)



文化芸術交流実験室28 建築探偵団 其の四 「内側から見る岡山」

日時:2020年11月1日(日)13:00~17:00

開催地:岡山市内各所

講師:内海慶一(都市鑑賞者、ライター)

石田尚昭(公益財団法人 岡山文化芸術創造 理事)

私たちがよく知る岡山の街ですが、それを構成する建物の内部となると意外に知らないもの。誰かの仕事場や住居など、通常は限られた人しか入らない場所であれば無理はないでしょう。でも、そこには魅力的な空間や、街の成り立ちを教えてくれる様々な要素が存在していたりします。

普段立ち入れない建物の内側からみる岡山をご一緒に、この街をもう一度捉え直してみましょう。最後は「西川アゴラ」でお茶をしながら、鑑賞したものを振り返ります。

石田尚昭…東京理科大学大学院工学研究科建築学専攻修了。1980年岡山市役所に入庁後、庭園都市推進課長、都市整備局審議監(都市・交通・公園担当)として、西川緑道公園の活用事業や旭川かわまちづくり事業などを手がける。2016年に退職し、現在は(公財)岡山文化芸術創造理事や、岡山市都市整備局まちづくりアドバイザーなどを務める。

内海慶一…1972年生まれ、岡山市在住の都市鑑賞者・ライター。ピクトさん、装飾テント、玄関灯など、身のまわりにある様々なモノ・風景を鑑賞し、写真や文章を発表している。活動テーマは「見たことあるのに見えてなかった」。著書に『ピクトさんの本』、『100均フリーダム』、『路上と観察をめぐる表現史 ―考現学の「現在」』などに寄稿している。



レポート

実験室の人気企画となった建築探偵団。第4回目となる今回は、約30名の参加者が集合場所の野田屋町公園に集まりました。講師2名を筆頭にA・Bの2チームに分かれて移動を開始。当日は秋晴れの爽やかな天候に恵まれ、絶好の街歩き日和となりました。

最初に訪れた岡ビル百貨店では、普段はなかなか入れない居住空間や屋上に上がり、実際に住んでいる方の室内を玄関先から見学させていただきました。建物全体は西側の通路で4棟がつながる構造。見学した居室は、当時なかった浴室を後から増築したため、お風呂場の奥にトイレがあるという変わった間取りをしていました。格子状の外観や煙突、別棟にある旧共同浴場(現在は駐輪場)、屋上看板などを間近で鑑賞でき、今まで知らなかった岡ビルに触れられる貴重な機会になりました。

岡ビル百貨店を出た後は、表町に向かいながら街中の気になる建物をチェック。内海さん、石田さんの解説を聞くと、見ているようで見えていなかった街の面白さに気づきます。窓やドアの形、装飾テントなど、昔から残る建物には見どころがたくさんあります。柳川交差点の路地裏では小さなお稲荷さんを発見。参加者は思い思いに写真を撮りながら会話を弾ませました。

次の目的地、上之町ビルに到着。ここでは、ゆるっとした雰囲気、階数表示に注目が集まりました。年季の入った建物内部は、トイレのタイルや事務所のドアなど至る所に昭和の面影が感じられ、通路の窓から見渡す表町の景色も不思議と新鮮に映ります。石田さんからは「さまざまな角度から建物を見ると、意外な発見があって面白い」とアドバイスをいただきました。

ここからは2チームが別々のコースを散策しました。内海さん率いるAチームは岡山県農業会館を訪れ、地下の金庫室やエレベーター機械室、ベランダなどを見学。ドアの取っ手、照明、手すりといった内装・設備の細かい部分にも着目しつつ館内を回りました。Bチームは県庁通りと西川緑道公園の周辺を散策。通りを彩るアートや看板、立ち並ぶ店舗を石田さんが丁寧にナビゲートしてくれました。

最後は打ち上げ会場の「西川アゴラ」に全員が集合し、おいしいドリンクとお菓子でリフレッシュ。見てきたものを振り返りながら感想を述べあいました。



講師の石田さん(左)と内海さん(右)



岡ビルの屋上から住居部分を眺めてみる



岡山県農業会館の内部を見学

ヒト・コト・場所



岡ビル百貨店

岡山の鉄筋コンクリート建築の先駆けとなった4階建ての建物。1946年に「西川マーケット」として開業後、1951年に屋内型小売市場として現在の建物が竣工。1階は鮮魚店や青果店、惣菜店、飲食店など約34店が軒を連ねる「岡ビル市場」で、2階から上は店舗で働く人の住居を構えた職住一体型の施設となっている。設計は建築家の久米権九郎。長い年月の間に増改築が行われた。岡山の台所として親しまれている。

<http://www.okabiru-ichiba.com/>



上之町ビル

岡山市北区表町に位置する商業ビル。上之町商店街沿いに建つコの字型の構造で、4階建ての各フロアには学習塾やNPO法人などさまざまな事業所や各種団体の事務局が入居している。この地区は1970年代に「上之町」から「表町1丁目」に住居表示が変更され、旧上之町として商店街やビルにその名前が残されている。レトロな階数表示や看板の文字、タイルなどを含めて、建物全体に昭和建築の名残がある。



一般社団法人 岡山県農業会館

岡山市北区磨屋町に位置する、地上7階、地下1階の鉄筋コンクリート造の建物。京都大学工学部教授の棚橋諒氏によって設計され、1962年に完成。農業団体の関係や事業の発展を図るとともに、県下農業者の福利のための施設を提供することを目的につくられた。建物内には農協連合会や農林中央金庫などの事業所や金融機関、会議室などが設けられている。

ワークショップ

ドリンク

打ち上げでは「EXCAFE」のドリンク&スイーツを提供。ドリンクは特製フレッシュジュースをはじめ、コーヒーやお茶など数種を用意。おやつは一口サイズの焼き菓子など、会話しながら手軽につまめるものに。



ワークショップ

13時～ 野田屋町公園に集合

・岡ビル百貨店(2階以上の住居部分と1階の岡ビル市場)

→徒歩移動…野田屋町～蕃山町(路地裏稲荷)～桃太郎大通り

・上之町ビル(3号ビルの各フロア)

→移動…表町商店街～街角アート(流政之の彫刻)～送水口(岡山県産業会館)

15時～ ここから2手に分かれて鑑賞

Aチーム…岡山県農業会館(1階、7階、エレベーター機械室など)

Bチーム…県庁通り～西川緑道公園沿いを散策(平松醫院の看板、岡山バプテスト教会、下石井公園、ソーラービルなど)

16時～ 2チーム合流して休憩、打ち上げ

・西川アゴラ(岡山大学地域総合研究センターが開設したまちづくり拠点)



参加者コメント

- ・個人では入れない所を見学でき、歴史的な解説もあって面白い。(60代/男性/会社経営)
- ・岡ビルの設計デザインはフランスから影響を受けた、という点が印象に残った。他者からインスピレーションを受けることで新しい芸術や学問が生まれていく様子を体感できた。(40代/女性/会社員)
- ・大阪から参加したが、岡ビルの屋上やディープな街歩きが楽しめて充実した内容だった。とても面白い取り組みだと思う。(40代/男性/会社員)

講師コメント

参加者の皆さんがいろんな質問をしてくださったので、私も新たな発見を得られてありがたいです。今回はみんなで見ることの楽しさを存分に味わいました。知識の有無はまた別の話で、人それぞれの目の付け所や捉え方にこそ、街歩きや建物鑑賞の価値があります。私は昔から「目玉の交換」と言っていますが、誰かと一緒に自分が見過ごしていたものを代わりに見つけてくれたり、お互いの気づきや視点を共有したりできます。それこそが複数人で街歩きをする一番の楽しさだと思います。(内海)

今回は、なかなか入れない場所から見る建物の良さや、目線が変わることで見え方も変わるという新鮮な感覚を体験してもらえたんじゃないでしょうか。いろんな場所を建築目線で解説していましたが、みんなが面白がってくれたのでうれしいです。見慣れた建物、古くから残されている意匠や設備の一つひとつに、歴史や文化、産業を垣間見ることができます。やっぱり、街は歩いてみないと分からないことがたくさん。建築を通じて街歩きの楽しさを広げてほしいですね。(石田)

文化芸術交流実験室30

岡山カルチャー・クロニクルシリーズ1 「遊図に学ぶ視覚的な記録法」

日時：2021年3月14日(日) 13:00～17:00

開催地：天神山文化プラザ

講師：能勢伊勢雄（写真家、前衛映像作家、ライブハウス主宰）

大森誠一（NPO法人アートファーム代表理事、プロデューサー）

岡田智美（山陽新聞社編集局文化部副部長 デスク）

岡山県の中で起こってきた幾つもの文化芸術に関わる出来事を、クロニクル(年代記、編年史)の視点で検証するシリーズ。この実験室では、その当時をよく知る方々にお話を聞き、参加者全員で岡山カルチャー・クロニクルを編纂していきます。岡山の文化芸術の背骨を形成している個々を拾い上げながら、そこから未来に続く道筋を探ります。第一回目は、全回を通して作成する「遊図」の作り方や考え方を体験。コンセプチュアル・アートとして遊図の作品を発表している能勢伊勢雄さんから、記述方法としての遊図を学びます。

能勢伊勢雄…写真家・映像作家。美術展を多数企画。水戸芸術館「ANOTHER WORLD」連動企画の企画・講師。「備前アートイベント」ADを7年間務める。岡山・倉敷市連携文化事業「スペクタクル能勢伊勢雄 1968- 2004」開催。2018年福武教育文化振興財団より「福武文化賞」受賞。

大森誠一…1950年岡山市出身。編集者とコピーライターを経て、92年にアートファーム創立。地域と舞台芸術をつなぐ創造・育成・鑑賞・普及・協働事業のほか、岡山県天神山文化プラザなどの記念事業や共同製作事業をプロデュース。14年岡山市文化奨励賞を受賞。

岡田智美…岡山大文学部哲学科(美学・美術史専攻)卒。1994年に山陽新聞入社。文化部、社会部、整理部などを経て2007年より文化部で主に美術取材を担当する。2015年より現職。岡山市在住。



レポート

カルチャー・クロニクルシリーズ初回として注目を集めた今回の実験室。会場となった天神山文化プラザには、20数名の参加者が集まりました。

まずは能勢さんから、自身が長年取り組んできた芸術活動、コンセプチュアルアート「遊図」の理念やルーツについての解説がありました。遊図とはジャンルや時代を自由に横断し、多様な概念を結びつけて編纂したチャート(海図)のこと。ここでは編集者・松岡正剛氏の著書「遊学の話」や、ドイツの美術史家アビ・ヴァールブルグの図像パネル「ムネモシュネ」の活用など、創作の原点となった書籍や貴重な資料をスライドで紹介。遊図のコンセプトや表現方法を知るとともに、能勢さんの博識ぶりや深い物の捉え方、独自の世界観についても触れることができました。

次に大森さんと岡田さんから、岡山の文化芸術の流れについて紹介がありました。大森さんは「アートファーム」の事業を通じて、地元で鑑賞する機会が少なかったパフォーミングアーツや著名な演劇公演を数多く招致しています。地域で舞台芸術の振興と普及に取り組んできた経緯とともに、演劇カルチャーの歴史や岡山における舞台芸術活動の動きを振り返りました。

岡田さんは、岡山で起こった現代アートの動きについて年表を元に解説。戦後の出来事として、天満屋岡山店で開催された「第1回岡山展(1948)」を取り上げました。岡山の文化芸術が発展した背景には、百貨店、美術館、市民会館といった文化発信拠点の存在が大きかったと話します。さらに1993年から約2年間運営されたアートスペース「自由工場」をポイントとして挙げ、1990年代の若い世代を中心とした自由な芸術活動が、2000年代以降のアートシーンの活発な動きにつながったのでは、と提言しました。

後半は能勢さんのレクチャーを元に、参加者全員で遊図の記録法を実践しました。各自で持参した1冊の新書を用いて、その中から遊図の情報となる言葉を拾い出します。まずは目次を読んで本の内容をイメージし、最終章から前へと逆向きに読み進めます。気になる言葉をマーキングして紙に書き写したら自分のテーマでグループ分け。参加者は言葉の構図から自分の意識を広げる体験ができ、遊図へのステップを学ぶ貴重な機会となりました。



作品や遊図について解説する講師の能勢さん



大森さん、岡田さんが岡山の演劇・アートの動きを紹介



後半は遊図の記述法をワークショップで体験

ヒト・コト・場所



図録「渦と記憶」

風景、思想、運動、内的ヴィジョンへとその形態を注ぎ続ける「渦」と、それに関わる人類の記憶をテーマに描き続けてきた画家・植田信隆氏の写真・CGと、能勢さんの「遊図」によるコラボレーション展「渦と記憶」の作品を収録。渦にまつわる記憶を遊図というコンセプチュアルアートで表現し、植田氏がビジュアルイメージを添える形で作品を展開している。ここに収められた作品は、宇宙に刻印された渦の編集と映像化、あるいは「ちょっと尖った大人のための渦についての絵本」であると捉えられる。



「相貌(そうぼう)」アートファーム創立 25周年全記録

大森さんが代表を務める NPO法人「アートファーム」の創立 25周年記念誌として 2017年に発行。25年にもわたる舞台芸術を主体とした主催・協働事業の全記録を、カテゴリーや年代に分けて編集したもの。最初の主催事業となった「岡山湖畔劇場」をはじめ、岡山で実現した数々の舞台演劇の記録や、岡山の演劇活動を紹介する「季刊劇ぶれず」、演劇パンフレットといった貴重な資料写真も数多く収められている。



「自由工場」をはじめとする、岡山芸術活動の記録集

岡田さんが岡山のアートの動きを語る中で、一つのキープポイントとして取り上げたのが「自由工場」。これは岡山市役所分庁舎建設のため取り壊しが決まった「大供ビル」を、1993年から約1年半のみオルタナティブなアートのスペースとして活用したもの。400名を超える美術家や建築家、市民や学生が運営に関わり、現場制作やコンサート、シアター、交流会などを行った。今回の実験室では、その活動内容が収められた「自由工場記録集」のほか、講師陣が収蔵する貴重な資料の数々が紹介された

ワークショップ

ドリンク

前半終了のタイミングでコーヒーブレイク。この日のおやつは「EXCAFE」特製のパウンドケーキと、差し入れの焼き菓子。丁寧に淹れる「EXCAFE」のおいしいハンドドリップコーヒーは、参加者同士が会話を弾ませる良いきっかけになった。



ワークショップ解説

■遊図のペースづくり(新書を用いた情報収集のプロセス)

- 1.目次読書法…本文を読み始める前に、目次を繰り返し読んで本の内容をイメージする
- 2.逆読書法…最後の章から前へと逆に読んでいく
- 3.マーキング…自由なテーマを元に、本の中の気になる言葉をマーキングしていく
- 4.プロット…マーキングした言葉を紙に書き出す。付箋に書いてもよい
- 5.グルーピング…書き出した言葉を自分のルールでグループに分けてみる(共通項など)
- 6.不足の発見…グルーピングされた言葉から足りない要素を探し、自分の意識の有無を発見する



参加者コメント

- ・ワークショップの読書法が新鮮だった。こんな風に本を読んだことがなく、今までにない発見を得ることができた。
- ・最初は言葉を選ぶのが難しかったが、ジャンルの違う言葉が繋がり、自分の世界観が反映されていく面白さを感じた。

講師コメント

別々の言葉に共通性や対象性を持たせ、一つのチャートとして立体的につなげていく作業を体験していただきました。今日のワークショップは遊図の序盤的なもので、さらに複雑なプロセスを経て完成に至ります。遊図はコンセプチュアルな創作であり、一見自由でありながら、誤魔化しの効かない怖さがあると感じています。(能勢)

私は岡山の舞台芸術文化について大まかに紹介しましたが、「アートファーム」25周年記念誌では、舞台芸術の動きを細かく編集しました。誰しもに残る芸術体験を持っていると思いますが、クロニクルは一つひとつの出来事を年表で振り返ることができます。流れと繋がりを読み解くことで、芸術への興味と知識がより深められるのではないのでしょうか。(大森)

今回紹介した現代アートの年表は、今後のクロニクルシリーズの基本資料としてまとめました。ここに演劇、写真、工芸、音楽といった様々なジャンルを合わせると、岡山の文化芸術の歩みや街の動きが何層にも膨らんでくると思います。遊図の記録法、読書法も非常に面白く、今後のクロニクルでキーワードを重ねていく作業に役立つと感じます。(岡田)

アートマネジメントオンライン研修 デザインとは何か？

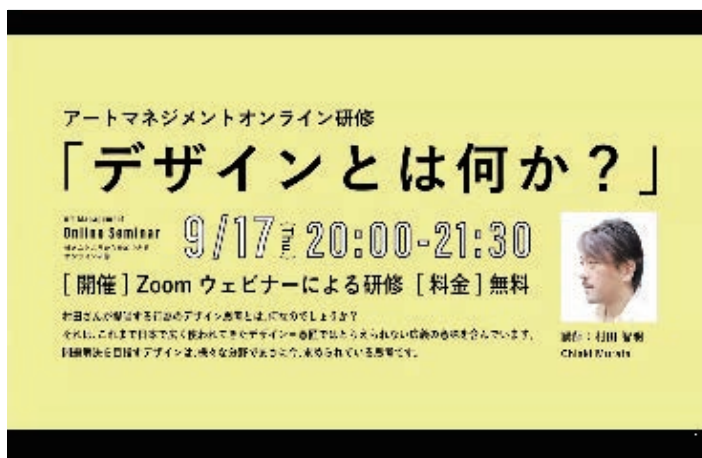
日時：2020年9月17日(木) 20:00～21:30

開催地：Zoomウェビナーによる研修

講師：村田智明(株式会社ハーズ実験デザイン研究所 / METAPHYS代表取締役)

村田智明さんを講師に迎え、「デザインとは何か？」をテーマにオンラインセミナーを行いました。村田さんが提唱する「行為のデザイン思考」とは、一体何なのでしょう？ それは、これまで広く使われてきたデザイン＝意匠では捉えられない広義の意味を含んでいます。問題解決を目指すデザインは、様々な分野でまさに今、求められている思考です。

村田智明…株式会社ハーズ実験デザイン研究所 / METAPHYS代表取締役。大阪市立大学工学部応用物理学卒、1986年に同社設立。提唱するS.S.FB法や感性価値ヘキサゴングラフなどが広く活用され、プロダクトを中心に国内外のデザインアワードで170以上を受賞。自ら運営するMETAPHYSは、「行為のデザイン」に基づいて開発から販売までを実践し、東京都美術館・新伝統工芸プロデュース事業や越前のiiza、鳥取のなんぶ里山デザイン大学などの地域振興にも多く携わる傍ら、社会性を持ったデザインの啓蒙に尽力している。「ソーシャルデザインの教科書」など著書多数。



レポート

村田さんは、デザインで問題解決を図るソリューションビジネスを運営し、デザイン思考の段階から企画開発を行う「デザインシンクタンク」の代表として、さまざまなデザインワークやプロデュース事業を行っています。大学時代は物理学を専攻していた理系出身者で、デザインは無縁な存在だったという村田さん。当時はデザインというのが魔法のツールのようで眩しかった、と語ります。

広義のデザインと3つのプロセス

ウェビナーの冒頭では、デザインの語源とそこから構成される3つのプロセスを挙げ、デザインの本当の意味について今一度考える必要があると提言しました。

1. 観察と発見をする
2. 改善のための思考・概念の組み立て
3. プランを分かりやすくアイコン化、可視化する

デザインはラテン語の「designare(デジナーレ)」が語源であり、「計画を記号に表す」という意味があります。ある対象に生じる問題を解決するために、その対象や周囲との関係性を観察して、思考や概念を組み立て計画する。その上で、媒体に応じて分かりやすく記号化、可視化するまでがデザイン本来の意味と捉えられます。日本におけるデザインは図案や意匠を表す手法のことであり、3番目のプロセスのみを指す言葉だと考えられがちです。村田さんは3つのプロセスを包含する「広義のデザイン」の必要性を提唱し、色や形のみではなく、状況を把握し問題を解決するプランも含めたデザインの考え方が重要だと話しました。

デザインの仕事の広がり

デザインの仕事は、付加価値や美しさを求める「モノづくり」から、社会性や地域課題も考えた総合的なプロデュースができる「コトづくり」まで広がっています。

村田さんは、広義のデザインマインドを持つ人材創出のために、初等教育の中心にデザインを据え置いた、新たな学びの形を提案。国語、算数、図工といった学びはあくまでも「Skill」であり、自分の意思で何かを行う「Will」を養う教育が大切だと話します。

デザインを中心に置いた授業では、観察・問題発見・解決・プレゼン・実行・記録の一連の流れを学びます。初等教育でこの制度ができれば、大学までにダブルメジャーの教育が開始され、自信をもって物事に取り組む姿勢や応用力、問題解決能力を身に着けることができます。村田さんは、小学校低学年を対象にした問題解決型のワークショップや、全国の高等専門学校対象のデザイン教育コンペティションなど、過去に手掛けた事例を紹介しました。

また、キッズデザイン協議会「こども OS 研究会」に触れ、子どもの思考や行動に基づく「こども OS」の観察調査や、そこから導かれるモノづくりの発想法、ワークショップへの応用について解説。村田さんは、大人の価値観や理論だけではなく子どもの視点に立って商品開発をすることの重要性を説いています。

初等教育にデザインを！すべての科目を横断的につなぐ「デザイン」

1. SKILL & WILL



行為のデザイン思考法

後半のテーマは「行為のデザイン思考法」。行為のデザインとは、人の行為に注目して改善点を見つけ、ユーザーを美しい行為へと導く時間軸のデザイン。あらゆる行為の中に生じる分かりにくさ、使いにくさ、不快感といった「行為のバグ」を分類することで、問題解決の糸口を見つけ出すものです。村田さんは、「同時に減らないシャンプーとコンディショナー（負のスパイラル）」、「自分の車に戻れなくなる大型駐車場（迷い）」といったバグや、「レフィルを詰め替える時に起こる手間（プロセス因子）」といった誘発要因をイラストで分かりやすく説明。行為を人、時間、空間で俯瞰的にとらえた問題解決法とデザインへの活用について学ぶことができました。

今回のウェビナーでは、村田さんが手掛けてきたプロダクトや地域振興プロデュース事業とともに、優れたソーシャルデザインの事例を数多く紹介。地域課題や BOP（低所得者層）ビジネスなど、仕組みづくりも含めたデザインについて深く知る時間となりました。

最後は、「よくイノベーション（新機軸）」といいますが、循環する構造をつくることで社会貢献をしたい。サイクルを再構築するためのイノベーションでありたい」との言葉で締めくくりました。

バグと因子を視覚化する / バグの種類

負のバグ



「シャンプーとコンディショナー」



キーワード



備前国の学びのデザイン

第18回「おかやま県民文化祭」の一環として企画され、地域の文化・芸術支援を活用して展開された「これが OKAYAMA! プログラム」のテーマ。楽しみながら学びを誘発するプログラムや、そういった学びを生み出すための場、さらにそれを支えるキーマンを紹介し、ごく身近にある多様な学びを提案する。学びのスタイルが変化し、持続可能な暮らしのための教育が意識され始める中、文化芸術の分野でもジャンルを越えたプロジェクトや地域性をテーマにしたユニークなプログラムが多数生まれている。

<https://o-bunren.jp/manabinodesign/>



問題解決に効く「行為のデザイン」思考法

村田智明著 2015年9月発行

発行者：小林圭太 発行元：株式会社 CCCメディアハウス

ウェビナーの中で紹介された村田さんの著書。モノだけではなく、モノを取り巻く環境や人の行動に着目することで改善点を見つけ、より良く美しい行為を導く思考法。ここでは視覚的な美しさはもとより、ユーザーが滑らかに目的の行為を進められるデザインを「良いデザイン」と定義し最終目標としている。

<https://www.hers.co.jp/about/>

Q&Aと感想

Q&A

Q1. 「教育の中のデザイン」のサイクルについてですが、なぜ最後にドキュメント（記録）が入っているのでしょうか？ 記録をしなくても実施だけで学びになっていると思います。

A. 足跡を残すことは自分の自信や名誉につながりますし、それを子どものうちから経験させることが重要です。子どもたちの成長過程で、学びの資料として次の後輩達に生かすこともできます。その流れを作る上でもドキュメントは大事な作業です。

Q2. 子どもたちが、自発的に作りたいという好奇心を生み出すためには、どんな仕掛けが必要でしょうか？

A. 未経験のことにに対して冒険をさせてあげることですね。そこで問題となるのは時間の創出です。子どもたちは初めてのことにに対して手を出しにくく、夢中になるまでに時間がかかる傾向があります。昔、不登校の子どもたちが集まる神戸市の学校を見学したのですが、そこでは通常の45分授業ではなく、一人ひとりが一日中好きなことに取り組んでいました。興味を持続させる時間や環境づくりが大切だと感じました。

感想

視聴者：「子どもOS研究会」の話題についてです。リスク回避や常識、規制に縛られる「大人OS」の考え方で教育を進めようと、子ども達が本来持つ感性をなくしてしまうのではないか、という危機感を覚えました。

村田さん：私たち大人が「子ども OS」の視点をふまえて教育やデザインを考えるためには、自由な発想や好奇心、プレイフル（遊び心）を持つ時間を意図的につくる必要があります。

アートマネジメントオンライン研修 「今、アートを学ぶこと」

日時：2021年3月5日(金)15:30～16:30

開催地：Zoomによるオンライン研修

講師：森山知己(日本画家／倉敷芸術科学大学芸術学部教授)

今回のオンライン研修は、岡山県内の文化関係公益法人や文化施設等の職員を対象とした情報交換会に付随して行われるアートマネジメント研修として、日本画家の森山知己さんを講師に迎えて行われました。森山さんは倉敷芸術科学大学の教授として教育にも関わり、文化芸術を通じた地域振興事業に尽力するなど幅広く活動しています。講義では「今、アートを学ぶこと」をテーマに、芸術を学ぶ面白さや魅力を伝えるためのプログラムと、森山さんが過去に手掛けた作品やプロジェクトを紹介。アートを学ぶ意味について考えながら、社会におけるアートと地域連携のヒントを探ります。

森山知己…1958年岡山県倉敷市生まれ。1983年東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程修了。大学卒業後は日本画家として個展や同人展を中心に活躍し、数多くの作品を発表。1996年から岡山県加賀郡吉備中央町へ転居し、吉備高原都市のアトリエで制作活動が続けるかたわら、倉敷芸術科学大学芸術学部の教授を務める。天満屋岡山店をはじめ全国での展覧会や講演、ワークショップなどを実施し、2014年には福武文化奨励賞受賞するなど受賞歴多数。画家であると同時に描法や画材、描画道具の研究も行い、その知識と経験を元に手掛けた尾形光琳作「紅白梅図屏風」の再現が高く評価されている。
<http://plus.harenet.ne.jp/~tomoki/>

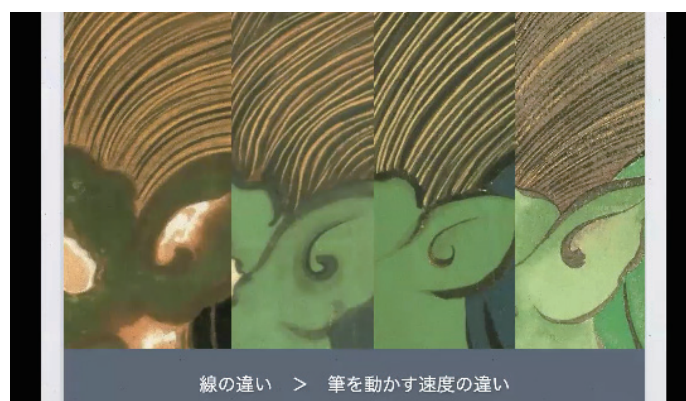


レポート

まずは自己紹介を兼ねて、森山さんが日本画家として関わってきた岡山県下でのアートプロジェクトをいくつか紹介しました。その中で詳しく取り上げたのは、RSK山陽放送の新北屋「イノベティブ・メディアセンター」内にある「能楽堂 tenjin9」の正面に描かれた松の絵。能楽堂の顔となるこちらの大作について、アトリエでの制作風景を記録した動画とともに、狩野派の伝統的な画法とプロセスについて解説を行いました。また、興味深い点として松を描く鏡板の伸縮性について触れた森山さん。木材という伸縮する素材に対して絵具を定着させるために、接着剤である膠(にかわ)の柔軟性が必要であると痛感し、昔の画家や職人が日本の膠に求めた要素が明らかになったと語ります。

森山さんは自らの芸術表現を追い求める中で、自然をテーマに掲げながら伝統的な日本絵画の技法や様式、材料の研究を重ねてきました。模写を通して筆の使い方や和紙、絵具、水の持つ特性を知るといった具合に、昔の画法に着目することで技術としてのアートを学ぶことができ、さらには文化、自然の法則といった普遍的な部分への理解も深まります。どこか捉えどころが無いものとされがちなアートですが、オリジナリティの追求とは別の考え方として、粉本の学びによってアートの価値や具体性が見えてくるのでは、と話しました。

あらゆる物事に対し、「なぜだろう?」「なんだろう?」という疑問を考えていくことで理解を深めていくという森山さんは、大学時代に「なぜ美術教育があるのか?」という問いにぶつかったそうです。その時、当時の大学教員から言われたのが「秩序感の感得」という言葉。それは「あるべきものがそこにある、望ましい姿」といったものを、見ようとする力、感じる力のこと。森山さんは、善いものを見る力、向き合う力を育てることが美術教育の大切な要素であると考えています。



続いて「社会におけるアートの意味」へとテーマを移し、地域と連携したアートについての事例を紹介。森山さんは倉敷芸術科学大学の教授として地域連携教育に力を入れ、授業の一環として倉敷美観地区で行われる「倉敷屏風祭」に参加。学生を中心に屏風作りを行う中で、児島のデニムを使った「デニム屏風」を制作するなど地域おこしを盛り込んだ活動に取り組んでいます。森山さんは、地域と人、伝統を「つなぐ」こともアートの大切なポイントであると話します。

後半では、改めて今回のテーマである「今、アートを学ぶこと」について触れていきます。ここでは芸術系大学の存在を再確認するための取り組みとして作ったプレゼンテーションの資料を紹介。インターネットのビッグデータを例に、社会や経済の動きに大勢の人たちの想いや感情、興味といった衝動が影響していることを解説。新しい気持ちの動きを作ること、未来に向けての価値を作ることがアートの役割であり、才能を育てるよりも感じる力を育てる「感性教育」こそが、新しい時代を生き抜くために必要ではないかと説きました。見る力、感じて心を動かす力を養うことがアートを学ぶ意味なのでは、と問いかけました。

かつてはモノの情報、存在を伝える役割をもつものとして多く見られたアートが、21世紀に入ってからは、価値を見つけだすキュレーションの意味をより付加する変遷をたどります。その場所でしかできない体験や出会い、背景も含めたものまで価値が広がり、アートの意味がモノからコトへ大きく働いている、と森山さんは話します。最後に、地域独自の活動や試みといった魅力あるストーリーに裏打ちされ、現在ではアートが社会の中で大きく位置付けられている、とまとめました。参加した視聴者からは、「実践的な話もあり参考になった」「仲間とつながり、楽しみながら自分なりのアートの感じ方を見つけることができれば、地域愛や困難に立ち向かう力がついていくのでは」という感想が寄せられました。



キーワード



能楽堂ホール tenjin9

RSK山陽放送の新社「RSKイノベティブ・メディアセンター」の一角に開設された全天候型の能楽堂ホール。総桧造りの本格的な能舞台には、日本画家・森山さんの手による鏡板の松が古典絵画の材料や技法で描かれている。各種講演会や展示会といった様々なプログラムに活用できる照明・音響機器を完備。文化芸術ゾーンとして知られる岡山市北区天神町の新たなランドマークであり、文化価値創造の拠点として期待されている。

<http://tenjin9rsk.jp/>

Q&Aと感想

感想

視聴者：今日のお話の中で「感性教育」の言葉が印象に残りました。地域振興に関して言うと、倉敷を一つの起爆剤として、岡山県全体がデジタルで加速度的につながっていきけるのではという期待感があります。

森山さん：今後は大学運営にも携わっていますが、大学と地域社会である倉敷市との密着度を高めていけたらうれしい。倉敷が誇る大原美術館という魅力的なコンテンツも含めて、今の時代に合った文化の推進、地域活性化の提案をつくりたいです。岡山の文化芸術に関わる方々と連携を図りながら、地域の魅力を深掘りしていければと思います。

Q&A

Q.地域連携を考える場合、人それぞれで地域の捉え方やイメージが異なり、どこまでの範囲を地域と設定するか悩みます。先生は地域やエリアについてどうお考えでしょうか。

A.社会がグローバル化する中で価値観を共有していくと、みんなに共通できるものにしていく動きが強くなります。その結果、ローカルなものの捉え方が難しくなりますよね。「地域創生」に対する「地球創生」がSDG sの考え方なのかなと思います。一概には言えませんが、固有の文化を継続、共有できる単位が一つのポイントになるのでは。地域のイメージを共有し、人が結びつきを保てる単位、自身がリアルな実感を持てる範囲の社会を、自分なりの地域の物差しとして考えてみてはいかがでしょうか。

おかやま県民文化祭 これがOKAYAMA!プログラム

県民が文化に親しみ交流するとともに、日頃の文化活動の成果を発表する場として「おかやま県民文化祭」を開催。岡山県文化連盟が運営主体となり、「備前国の学びのデザイン～自発的な学びを育むこころみ～」をテーマに、備前地域で自発的な学びを育み楽しく学べる様々なプログラムや、学びを生み出す「場」、支える「人」などを紹介するとともに、特別ワークショップを企画実施。新型コロナウイルスの感染状況の拡大をうけて、オンラインを活用した研修プログラムも実施した。

日時 | 2020年9月～11月

開催地 | 【岡山市】きらめきプラザ/蔭涼寺/EXCAFE/奉還町4丁目ラウンジ・カド/岡山神社/ヨノナカ実習室/

ありがとうファーム/犬島くらしの植物園/ヨノナカ実習室

【瀬戸内市】喫茶さざなみハウス長島/牛窓テレモーク

【備前市】旧閑谷学校/BIZEN中南米美術館

参加者数 | 18,117名

内容 | 特別ワークショップ19事業(文化芸術交流実験室、アートマネジメントオンライン研修含む)

その他、冊子紹介36事業

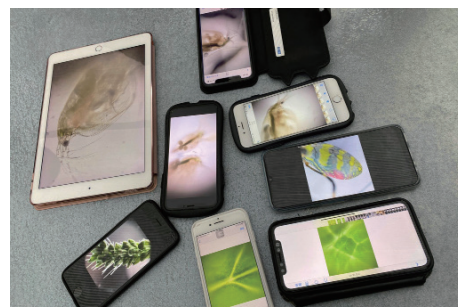
- ・ 庶民教育の殿堂 閑谷学校を学びなおす!
- ・ あそびのデザイン
- ・ 前島由美 食のお話会 ※オンラインに変更
- ・ 坂田明 ミジンコのお話し&ライブ
- ・ Neighbor Kitchen
- ・ 「めぐるカルタ」づくり
- ・ 未来を占おう! 2000年後のおみくじ☆プロジェクト@岡山神社
- ・ 詩のコマ撮りアニメづくり
- 古代アンデスの「さえずる野菜」作り ※中止
- 海辺の拾いもの ※中止
- ・ 廃材をアート素材に。アイデア実験室HUB LABキッズ
- ・ 科学と数学の体験学習プログラム 謎の物体ウーブレックを調査せよ!
- ・ 犬島くらしの植物園をスマホ顕微鏡で観察しよう!
- ここ熊山で生まれた詩を、この家で読む ※中止
- ・ 「刀Make」親子でMy刀をつくろう
- ・ 文化芸術交流実験室vol.27「詩であそぼう ことばを味わおう」
- ・ 文化芸術交流実験室vol.28「建築探偵団 其の四『内側から見る岡山』」
- ・ 文化芸術交流実験室vol.29「訪問実験室! 文化芸術が生まれてくる現場①『能舞台の絵の制作』」
- ・ アートマネジメントオンライン研修「デザインとは何か？」



あそびのデザイン<企画on岡山>



ウーブレック<牛窓テレモーク>



スマホ顕微鏡で観察しよう!<犬島くらしの植物園>



坂田明<蔭涼寺>



「備前国の学びのデザイン」広報物



(PDFデータ)

備前国の学びのデザイン～自発的な学びを育むところみ～

岡山はながらく「教育県」と呼ばれてきた歴史があります。残念ながら、今ではそういったことを知らない人も多くなりました。しかし、学びをデザインするという視点に立って、改めて県内の様々な活動を見渡すと、そこにはまだコミュニティに息づく学びを育むというDNAが、受けつがれているように思えます。

備前市にある創学350年を迎えた閑谷学校は、早くも江戸時代に日本初の庶民のための学校として当時の藩主によって開かれ、今日まで活動を続けています。また、岡山県は明治18年(1885)の小学校就学率が全国第2位と非常に高く、女子教育でも明治41年(1908)の高等女学校の数が全国1位であるなど、学びの場が多くの人々に開かれてきた歴史があります。

そういった学びを支える仕組みは、文化芸術はもちろん多様な分野で活躍する人材を生み、教育者をも輩出してきました。現在では、これまでになかった新たな学びのプログラムを開発し、自力で場を開く若い人たちも多く育ってきています。

今年のおかやま県民文化祭「これがOKAYAMA! プログラム」では「備前国の学びのデザイン 自発的な学びを育むところみ」をテーマに、県民文化祭期間中に備前地域で開催される、楽しみながら学びを誘発するプログラムや、そういった学びを生み出すための場、さらにそれを支えるキーマンをまとめてご紹介し、ごく身近にある多様な学びを皆さまにご提案いたします。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、これまでとこれからの暮らしをじっくりと見つめ直した方も多いでしょう。

生き生きと心豊かに暮らすヒントが、このプログラムに参加することで見つければ幸いです。

“学びのデザイン”とは

時代の変化に対応し、より良い未来を生きるため、様々な分野で学びのスタイルが変化してきています。特に顕著なのは、持続可能な暮らしのための教育が意識され始めたことでしょう。

文化芸術の分野でも、分野を互いに超えて取り組むプロジェクトや、コミュニティ、環境、地域の文化財、異文化理解、防災などをテーマにしたユニークなプログラムが多数生まれています。

また、一方的な講義スタイルやお手本に従う学びではなく、自発的な気づきやアクションがおこるような学習プログラムが作られています。さらには、そういった学びが自然に起きるような、環境づくりも意識され始めています。

「学びのデザイン」とは、そういったソフトとハードの両方で、狙いを実現するために、創意工夫し、それを反映させたプログラムや補助的な道具、展示、出会いの場、空間、さらには、それを支える人も育てることです。

(大月ヒロ子)

「備前国の学びのデザイン～自発的な学びを育むこころみ～」の小冊子で紹介した学びを創造する仕掛け人、学びを育む“新しい場”を抜粋して紹介します。



杉本克敬(Neighbor Kitchen)

Profile | 1978年、岡山県生まれ。

2007年、EXCAFEをオープン、バリスタとしてカウンターに立つ。2015年から県内の芸術祭等でアーティスト活動を開始、対話から日常の暮らしや記憶、感情をつなぐ作品を展開する。2016年より、ネイバー・キッチンを主宰
工夫している / 心がけていること | ネイバー・キッチンはそれぞれの「暮らし」をベースに展開していきます。自分一人で、または場のメンバーと共に、感じ、考え、判断しながら、自分の記憶や感情を料理という形にして表現します。「おいしい」感情は個人にとって絶対的で大切なものだと考えています。自分の暮らしを出発点にその人の「おいしい」を編み出せることは、自身に贈ることができる日々の小さなエールになり得るのではないのでしょうか。食べることでそのエールを場にいる他者と相互に共有することで、シームレスな社会の土壌づくりを目指します。



山下リール(一般社団法人 TOCOL)

Profile | 女子美術大学 芸術学部洋画専攻卒業後、書籍装丁、企業・学校の採用プロモーションツールの企画編集制作を行う。2003年光と色彩の能力テスト TOCOLを創立。『難しいを簡単に! 簡単を深く! 深くを楽しく!』をコンセプトに教育教材を開発。文化芸術活動支援を開始。2019年一般社団法人化

工夫している / 心がけていること | コンセプトは「好奇心を高め、新しいことに出会い、知る感動を味わう」。TOCOLは、教育・学術研究・文化芸術・スポーツの発展に貢献することにより、まちづくり、環境保全、国際交流、科学技術の振興、経済活動の活性化を図り、誰も置き去りにしない持続可能な地球社会の実現を目指します。学校法人 立命館大学(情報理工学部)を中心に、さまざまな分野の大学や研究機関、企業、プロフェッショナルの方々と産学連携を図りながら、理科教材開発、教育教材開発、コンテンツやワークショップの企画、学習動画サービス「TOCOL学校」運営、尺八奏者・寄田真見乃のプロデュースなどの事業活動・研究開発を行っています。



森下矢須之(BIZEN中南米美術館)

Profile | 子どもの頃から、古代中南米の美術品に囲まれて育ちました。愛する中南米の魅力を一人でも多くの方々に伝えることを使命と考えています。

工夫している / 心がけていること | 備前市日生町にある BIZEN 中南米美術館では、古代アメリカ大陸で作られた土器・土偶・石彫・織物を中心に約 2,200 点の収蔵品があります。何よりも大切なのは、参加者視点や参加者の満足度。文化は人の思いが形になったものです。これまで知らなかった文化との出会いは、言い換えれば知らなかった人たちとの出会いです。限られた時間、空間の中で、いかに参加者に嘗て体験したことがないような素晴らしい発見や感動をしていただける演出をするか(私どもですと、古代中南米の人たちとの出会いを演出するか)を常に考えています。



成田海波(奉還町4丁目ラウンジ・カド)

Profile | 1990年青森県出身。岡山奉還町 4丁目を拠点とする NAWATE PROJECTメンバーとしてラウンジカド等を運営。PJの一貫として、映像をはじめとした地域資料を収集・活用する「nawateアーカイブ」を始動。平行して東京工業大学博士課程に在籍し、地方都市の文化的モズンズについて研究中

工夫している / 心がけていること | NAWATE PROJECTでは、住人と商店主が混じり合う昔ながらの商店街の中に、旅人が滞在するゲストハウスや、飲食店兼イベントスペースなど、今まで周辺のエリアになかった機能を設けて、通いやすくなる場所、人が行き交う場所をつくってきました。緑があって近くにいる人・ここに住む人が、日常の暮らしの中で視点を変えてみる、知らない世界に触れてみる機会をつくること、集まって意見を交わし合うことのできる場づくりを意識しています。プログラムや企画を通じて、参加者の方が自身の持つ小さなアイデアや技術をつかってあたらしい実践をしてみたいくなるような、物事を始める手がかりをつかむ場をつくれたらよいと思っています。



スミカオリ(ヨノナカ実験室)

Profile | 1974年岡山生まれ。学生時に探検と文学と民俗学に憧れ、学校教育に 20年携わった後、独立。「国語は実技」との立場から、対話や聞き書きに挑戦中。高校などで授業や地域連携のサポートに携わる。「運だけが実力」を自負している。

工夫している / 心がけていること | ヨノナカ実験室は、調理実習や木工実習のような、対話や表現、交流の実習活動のためのスペースです。面白そうなことをみんなで共有したり、困ったことをみんなで相談しあったりする場を目指しています。「予定通り5割、副産物7割」のために、「とにかく実際にやってみること」を大切にしています。心がけているのが、入口のハードルを上げないこと、明確なゴールを定めないこと、人それぞれの得手不得手やペースを、お互いに活かす場作りです。充実した設備はないので、この場所ならではの時間にするべく、他ではあまりやらないことをリクエストします。思いつきもどンドン取り入れて、前回の参加者が次回の講師だったり、活動中に新企画が始まったりもします。根本的に「他力本願」で「最短距離を選ばず」に進めています。



柴川敏之(未来を占おう! 2000年後のおみくじ☆プロジェクト @岡山神社)

Profile | 現代美術家。イタリアのポンペイ遺跡など、突如消失した文化の痕跡に触発され、「2000年後に発掘された現代社会」をテーマに制作活動を続けている。現在、就実短期大学教授、広島大学大学院客員教授 <https://www.toshiyuki-shibakawa.com>

工夫している / 心がけていること | 私の場合、早めに現地へ出向き、場所の第一印象や空気感を大切にプランを考え、ドローイングを重ねながらイメージを膨らませていきます。現地へは複数回足を運び、身体を場に馴染ませ、展示や活動のイメージをブラッシュアップさせていきます。下見当初は広く複雑に感じていた場所が、だんだんとコンパクトに感じられてきたら、プランのイメージが一気に広がって具体化することがよくあります。同時に場所の第一印象を忘れてしまわないように、下見の際のメモを折に触れ参照し、軌道修正を繰り返しながら企画を進めています。



菅原直樹(OiBokkeShi)

Profile | 劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。「老いと演劇」OiBokkeShi主宰。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として勤務。2012年、東日本大震災を機に岡山県に移住。認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開

工夫している / 心がけていること | 「老人介護の現場に演劇の知恵を、演劇の現場に老人介護の深みを」という理念のもと、高齢者と共に作る演劇公演や、認知症ケアに演劇手法を取り入れたワークショップを実施しています。分野や世代を超えて、様々な人々が集まりますが、それぞれの社会的な立場を脱ぎ捨てて、共に演劇を楽しむ仲間として接することができるように心がけています。また演劇は総合芸術と言われているように、役者だけではなく、舞台監督、照明、音響、衣装、メイクなど様々なアーティストが活躍します。建具屋さんに舞台監督をやってもらったり、床屋さんにスタイリストをやってもらったり、地域のみなさんにそれぞれの知識や技術を活かしていただき、共に演劇づくりを楽しんでいます。



岡亜希子(科学と数学の体験学習プログラム GEMS)

Profile | 1980年生。キャンプ教育、環境教育、民具ワークショップ、生木の木工など、素材様々に体験学習の場を渡り歩く。3年前「クリエイティブリユース」を軸としたコミュニティづくりに賛同し倉敷市玉島へ。現在は古道具屋をしながら不定期で科学と数学の体験プログラムや木工ワークショップを行っている。

工夫している / 心がけていること | アメリカのローレンスホール科学教育研究所で開発された参加型体験プログラム「GEMS」。子どもたちが想像力と創造力をたっぷり使って学べるよう設計されています。そこで心がけていることは、「キモチ、アタマ、カラダ」を動かしながら学べる場をつくること。参加者はもちろん、プログラムをする自分自身も3つを動かしながら学べるかを大切にしています。もう一つは、「科学や数学の要素は暮らしの中にたくさん詰まっている」と伝わるような場づくりをすること。料理をしながら、お風呂に入りながら、片付けや庭の手入れをしながら、科学的な思考や数学のスキルを使っていることはたくさんあります。不思議だなと感じ、観察し、試してみる。そんな探求スイッチを家に帰ってからも押せるように、例えば、特別な実験器具がないとできない内容にはせず、家にあるモノや誰でも入手しやすいモノを使うよう心掛けています。



喫茶さざなみハウス 長島

国立療養所長島愛生園の旧福祉課を改装してオープンした喫茶店。入所者の方をはじめ、島外からもお客さんがやってきます。穏やかな瀬戸内の風景を楽しめる店内ではハンセン病隔離の歴史の中でずっと続いてきた人の営みを感じることができ、島内は自然豊かで散歩にもぴったりです。定期的にライブや企画展を開催しつつ、喫茶は朝から夕方まで営業しています。また、長島愛生園にあった盲目のハーモニカ楽団『青い鳥楽団』をオマージュした『青い鳥のハーモニカ』という演奏会をきっかけに青い鳥楽団のことを深く知り、広める活動もおこなっています。

[住所] 〒701-4592 瀬戸内市邑久町虫明 6539

[電話] 080-2923-0871

[営業] 8:00～16:00 定休日: 月・火

[MAIL] hibari.entertainment@gmail.com

[WEB] <https://sazanami-house.info/>



ありがとうファーム

表町商店街の中にあるコミュニティに開かれたアトリエ。廃材をアート素材として再活用し創造力と社会循環の生まれる場です。子どもの創造性と自主性を育むことを目的としたイタリアの幼児教育レッジョ・エミリアアプローチをベースにしたプログラムが特徴。分類されたさまざまな素材が並ぶストック棚は訪れる人のクリエイティビティを刺激します。ハンディキャップアーティストが講師をつとめるボーダレスな空間は新しい視点を増やしてくれます。

[住所] 〒700-0822 岡山市北区表町 2-6-43

[電話] 086-953-4446

[営業] 10:00～18:00

[MAIL] info@arigatou-farm.com

[WEB] https://www.instagram.com/hublab_okayama/

「備前国の学びのデザイン～自発的な学びを育むこころみ～」の小冊子で紹介した学びを創造する仕掛け人、学びを育む“新しい場”を抜粋して紹介します。



牛窓テレモーク

美しい瀬戸内に包まれた港町牛窓。その海沿いにあった町立病院はしばらく廃墟になっていましたが、2019年から地元の有志により「牛窓テレモーク」と名付けられ、文芸的な場所としての再生が始まりました。電気、ガス、水道もない場所に少しずつ息吹を注ぎこみ、スペースとして長い道のりを歩き始めたばかり。現在までアート、音楽コンサート、映画上映、ミニマルシェなど様々なイベントが行われています。今後も、そのゆったりとした建物と美しい景観に囲まれた立地を活かし、多様な可能性を育む場所として活動を広げます。

[住所] 〒701-4302 瀬戸内市牛窓町牛窓 4448

[電話] 0869-34-5877

[MAIL] ushimado.tepemok@gmail.com

[WEB] <https://ushimadotepemok.com/>



永瀬清子生家(NPO法人永瀬清子生家保存会)

明治39年岡山県に生まれた永瀬清子は、現代詩の母と評される詩人です。昭和20年に熊山(赤磐市)の生家に戻ってからは、農業をしながら生活者として創作を続けました。また、長島(瀬戸内市)にも40年間という長きにわたり、詩作の指導に通いました。保存会では、毎月17日(月曜日)14時～16時まで、見学者を受け入れています。掃除をし、自己紹介や詩を読み、詩の背景と清子の暮らしを感じてもらいつつ交流を深めます。

[住所] 事務所 〒709-0717 赤磐市小瀬木 329

[電話] 070-3783-0217

[営業] 毎月17日(月曜日) 14:00～16:00

[MAIL] 0217@nagasekiyokohozonkai.jp

[WEB] <https://www.nagasekiyoko-hozonkai.jp/>



Fab Lab Setouchiβ

備前福岡郷土館では、地域の歴史文化を伝える場として、一遍上人聖絵に描かれた『福岡の市』のデジタル版や(旧)平井医院の資料展示をご覧ください。またモノづくり機能として「FabLab Setouchiβ」を館内に併設し、デジタル技術を活用した地域資源からの学びを行っています。

[住所] 〒701-4265 瀬戸内市長船町福岡 758備前福岡郷土館

[MAIL] info@fablabsetouchi.com

[営業] 10:00～12:00、13:00～15:00

[WEB] <https://fablabsetouchi.com/>



岡山理科大学 恐竜学博物館

アジア最大の肉食恐竜「タルボサウルス」や、植物食恐竜「プロトケラトプス」、また、日本ではここにしかないモンゴルの恐竜化石が多数。化石との距離が近いのも大きな魅力です。発掘の様子やクリーニング作業など、最前線の恐竜研究現場を間近で見て、感じるができます。恐竜足跡化石や、年代測定、3D地形解析などの成果も詳しく展示。恐竜化石の発掘調査が、様々な研究分野によって支えられている様子も紹介しています。

[住所] 〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1

[電話] 086-256-9804

[営業] 10:00～16:45

[WEB] <http://dinosaur.ous.ac.jp/museum.html>



能楽堂ホール tenjin9

tenjin9(テンジンナイン)は、旧城下町の文化芸術ゾーンである岡山市北区天神町エリアに新設されたRSK山陽放送の新社屋「RSKイノベティブ・メディアセンター」の一角に誕生した全天候型の能楽堂ホールです。tenjin9は、三間四方の本舞台と三間の橋掛を持ち、国産の無垢材による総桧造りの本格的な能舞台を備えた能楽堂ホールでありながら、伝統芸能だけでなく講演会や展示会などの様々な文化発信・交流にも対応できるよう、LED照明・音響機器を備え、用途によっては目付柱を取外して最大幅13.4m×5.9mの舞台を持つ多目的ホールとしても広く一般にご利用いただけます。能楽堂ホール tenjin9の開業は、2021年度に予定されているRSK山陽放送の移転に先駆けて本年10月を予定しています。

[住所] 岡山市北区天神町 9-24

[電話] 事務局 086-221-1155 (平日 10:00-17:00)

[MAIL] information9@tenjin9rsk.jp

[WEB] <http://tenjin9rsk.jp/>



犬島くらしの植物園

植物は、酸素の供給から始まって、水循環や土壌保全を担ったり、エネルギー源や資材として活用され、薬や香料、飲み物や食べ物にもなる、わたしたちの命とくらしを支える唯一無二の存在です。犬島くらしの植物園は、単に珍しい植物を見学する従来型の「植物園」ではありません。花を摘んで遊んだり、草むらやビオトープで虫や魚などを発見したり、食べられる植物を採取して料理したり、微生物や植物の力でゴミや汚水をきれいにする仕組みを作ったり、植物にできるあらゆることを体験する場としてデザインされています。ここでは、入ってはいけない場所や、植物を摘んだり、食べたりしてはいけない、といった決まりなどは一切ありません。植物あふれる空間で「本当に贅沢なくらし方とは何か」について、いっしょに考えてみませんか？

[住所] 〒704-8153 岡山市東区犬島 50

[電話] 086-947-1112(犬島精錬所美術館)

[営業] 9:00-16:30

[MAIL] inujima-info@fukutake-artmuseum.jp

[WEB] <https://benesse-artsite.jp/art/lifegarden.html>

OKAYAMA CULTURE V

「楽しいが見える!」をコンセプトにYouTube公式チャンネル「OKAYAMA CULTURE V -おかやまカルチャー・ヴィ-」を公開。独自に作成する様々な動画コンテンツや、実演家の皆さんが自ずから撮影した動画を配信する場として広く公開し、県内の様々な文化芸術活動の様子を伝えています。

開始時期 | 2020年

作成・公開数 | 13本

内容 |

- ・童謡「待ちぼうけ」オンラインセッション! (演奏 岡山県演奏家協会)
- ・めざせ! チャンゴマスター (出演 チョ ヨンヒ[チョヨンヒ韓国伝統舞踊研究所])
- ・朗読劇 セロ弾きのゴーシュ (金星音読団)
- ・千本桜 (25足歩行ほっとステーションバンド)
- ・贈る言葉 (25足歩行ほっとステーションバンド)
- ・チャイコフスキーピアノ協奏曲第1番第1楽章より (岡山県演奏家協会)
- ・バレエ「くるみ割り人形」より「花のワルツ」によるバラフレーズ (岡山県演奏家協会)
- ・現代音楽 独奏楽器のための作品集「Strophes I」チェロ独奏 (岡本伸介)
- ・ミュージカル「レ・ミゼラブル」より「民衆の歌」オンラインセッション! (岡山県演奏家協会)
- ・「長崎の鐘」オンラインセッション! (岡山県演奏家協会)
- ・訪問実験室! 文化芸術が生まれてくる現場 vol.1「能舞台の絵の制作」
- ・訪問実験室! 文化芸術が生まれてくる現場 vol.2「飾る・運ぶ・仕舞う」【掛軸編】【器編】



URL <https://o-bunren.jp/tv/>

訪問実験室!



文化芸術が生まれてくる現場 vol.1「能舞台の絵の制作」

文化芸術が日々生み出される場所と、そこで創作や生活をしている表現者に会いに出かけます。日頃私たちが足を踏み入れることの出来ないプライベートな現場には、どんな仕事道具があり、どのような手順で創作をされているのでしょうか。訪問実験室第1回は、tenjin9の能舞台の絵を自宅アトリエで制作された日本画家の森山知己さんをお訪ねします。あの大きな絵は一体どのような空間で、どのように描かれているのでしょうか?

Profile | 森山知己

倉敷芸術科学大学教授。日本画家(tenjin9[P.20参照]の能舞台の絵の作者)。国の名前の付いた「日本画ってどんな絵だろう?」という素朴な疑問をエネルギーに、絵具や和紙などの素材、筆や刷毛などの道具、それらの使い方、古くからある技法を手がかりに、実際に試し描いて探しています。伝統という人だけでは完結しないこと、長い時間の必要なこと、地域、そして自然との関係の作り方など、たくさんのご縁をいただきながらワクワク・好奇心いっぱい探しています。



文化芸術が生まれてくる現場 vol.2「飾る・運ぶ・仕舞う」

第2回は岡山県立美術館 学芸課長の福富幸さんをお訪ねします。工芸品や掛軸などの古美術を日常の中で楽しむために「飾る・運ぶ・仕舞う」をテーマに取り扱いのちょっとしたコツを教えてください。「掛軸」「器」の2編を公開

Profile | 福富幸

岡山県立美術館 学芸課長。

1966年 京都市に生まれる。1990年 岡山大学文学部卒。同年 大学院文学研究科哲学専攻(美学美術史)修士課程へ進学。1993年修了。1991年より岡山県立美術館に学芸員として勤務(97・98年岡山県教育庁文化課に出向)。近代を中心に工芸および日本画を担当。



おかやま文化芸術活動相談窓口

文化芸術活動を行っている個人、団体を対象とした専門の相談窓口を設置。文化芸術活動への取り組み内容や思いなどをしっかり聴き、寄り添いながら、段階に応じたサポートや情報提供などを行いました。

相談・サポート内容

- ・練習場所の提供、紹介
- ・指導者やアーティストの紹介、マッチング
- ・事業相談や計画策定
- ・集客計画やチラシ配布で広報サポート
- ・県内外から集めた各種情報の提供
- ・活動に関するお悩み相談
- ・補助金・助成金の活用
- ・新型コロナウイルスによる影響に関する相談 etc.

受付件数 | 162件

官民合同助成金説明会

日時：2021年10月7日（水）14:00～16:30

岡山市令和2年度市民活動リーダー養成講座

「共感の視点で考える、地域の活動における資金調達講座」



文化プログラム(beyond2020)の認証受付

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの周知と参画の促進及び、政府が進める文化プログラム「beyond2020プログラム」について、公益社団法人岡山県文化連盟が申請窓口を務めています(認証組織は岡山県)。

beyond2020プログラム 認証状況

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
全体(※1)	157	328	266	164
うちアソシエイト受付分(2017.8.31～)	78	321	257	155
うち県文祭事業	79	153	65	37
うちその他文化連盟申請事業	28	37	26	8

※1 2021.3.31 内閣官房まとめ+アソシエイト受付未反映分

東京2020参画プログラム(応援文化オリンピアド) 認証状況

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
全体(※2)	69	64	97	28
うち県事業	2	4	46	0
うち県文祭事業	51	40	40	26
うちその他文化連盟申請事業	16	20	11	2

※2 2021.3.31「Culture NIPPON」HP掲載情報+文化連盟申請実績(2021.3.31まで)

監修	大月ヒロ子
編集	高田佳奈、橋本誠、溝口仁美
デザイン・制作	安藤次朗 [LOVE AND PEACE]、一般社団法人ノマドプロダクション
発行	公益社団法人岡山県文化連盟 〒700-0814 岡山市北区天神町8-54 岡山県天神山文化プラザ内
TEL	086-234-2626
FAX	086-234-8300
URL	https://o-bunren.jp/